

回復期病棟における アロマセラピーの活用

医療法人 凌雲会 稲次整形外科病院

2病棟：堀江和枝 他看護介護職員一同

診療部：稲次美樹子 高瀬真紀

作業療法士：岡田紗知

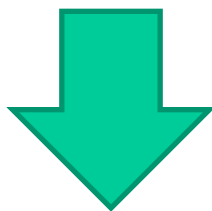
はじめに

当院では様々な疾患の患者様が入院し、在宅復帰を目指してリハビリを行なっている。しかし、疼痛、不眠、消化器症状、呼吸器症状など随伴症状から、リハビリの効果が十分に得られない場合がある。

そこで、今回アロマセラピーを併用することにより、随伴症状が軽減され、リハビリの効果が得られた症例があるので若干の治験を交えて報告する。

研究方法

事前準備として同意書を取得し、医師の指示した精油のパッチテストを行う。



スイートアーモンドオイルまたは白色ワセリン軟膏（プロペト）に2～3%濃度となるように精油を希釈し使用して評価した。

症例①

患者 : Y氏 男性 68歳

病名 : 頸椎損傷による四肢麻痺

施術目的 : 歩行訓練による手指の疼痛緩和

方法 :

作業療法士がアロマオイルを手指全体に塗布してから関節運動を行った。評価はリハビリ前後の手指関節の関節可動域 (ROM) 測定や疼痛の訴えの変化で行った。

使用精油

- 真性ラベンダー (*Lavandula angustifolia*)

主成分 リナリル酢酸・リナロール・

ラバンデュリル酢酸

疼痛緩和・抗痙攣・抗炎症・筋肉弛緩・鎮静

- レモンユーカリ (*Eucalyptus citriodora*)

主成分 β -シトロレナル・イソプレゴール・

β -シトロネロール

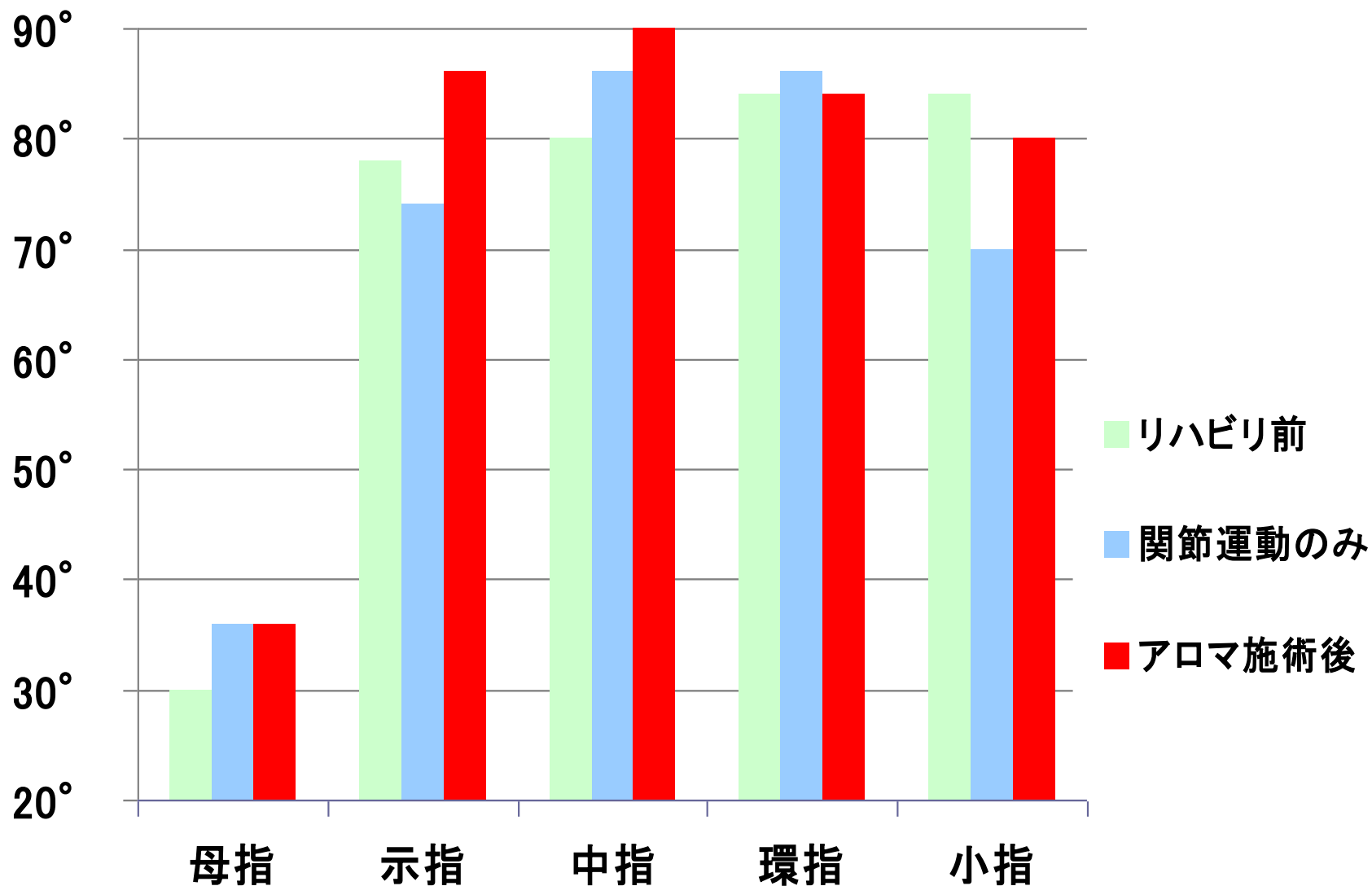
抗炎症・鎮痛・抗痙攣・うっ血除去・鎮静

- スイートアーモンドオイル (*Prunus amygdalus*)

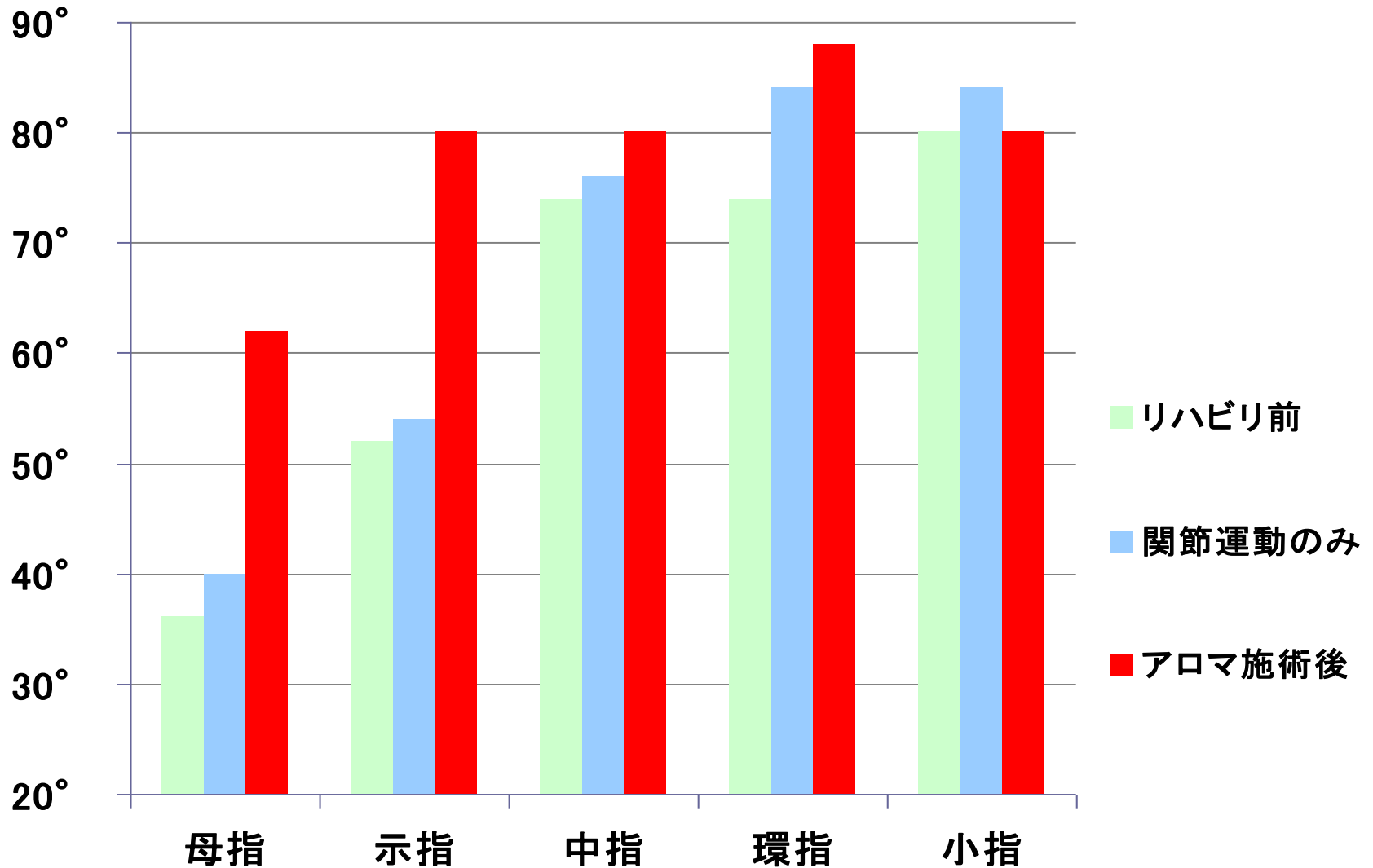
抗炎症・保湿・皮膚軟化



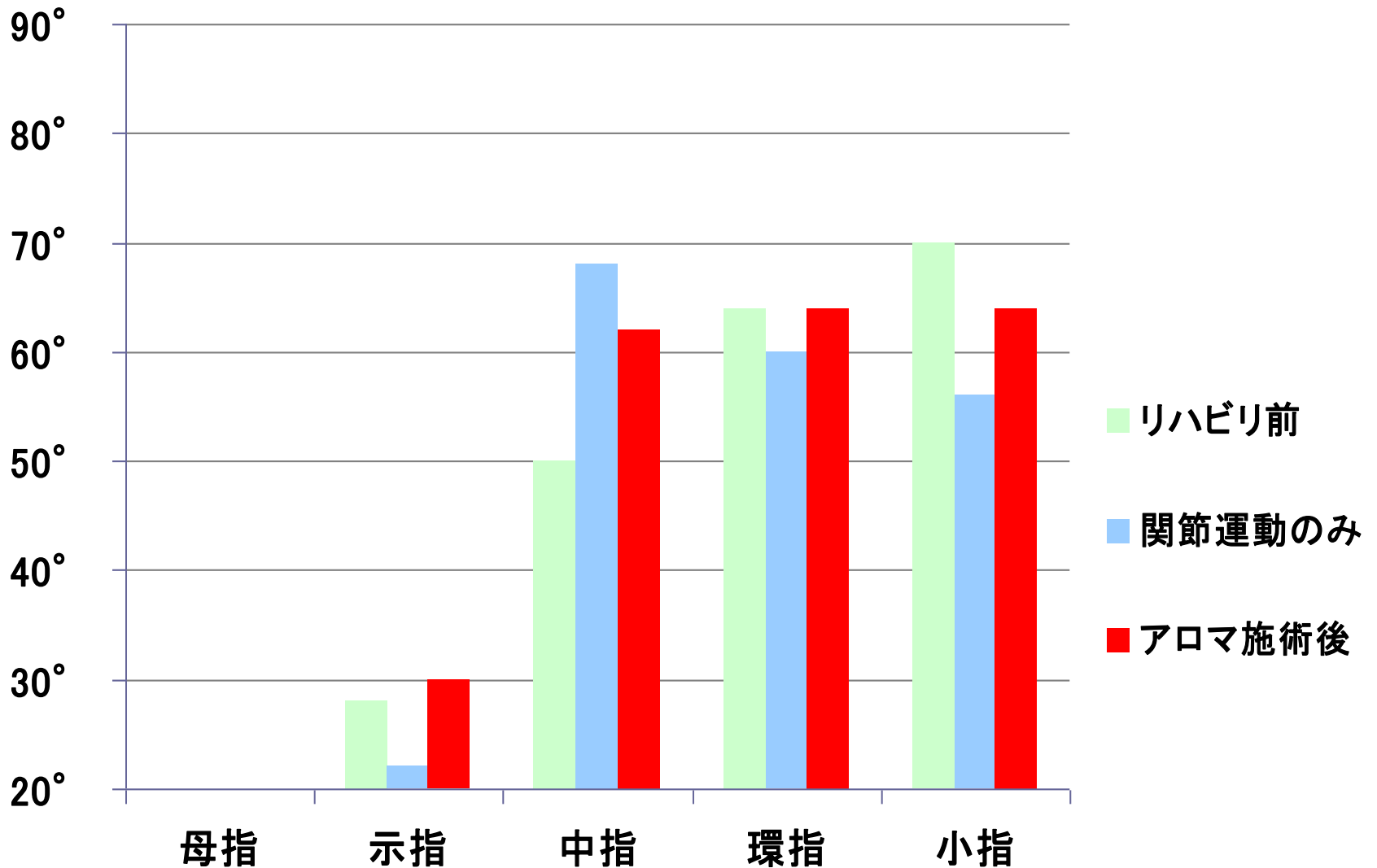
【右麻痺側手指ROMの変化】 MP関節：屈曲



【右麻痺側手指ROMの変化】 PIP関節：屈曲

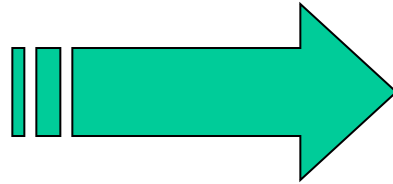


【右麻痺側手指ROMの変化】 DIP関節：屈曲



Y氏の手部：屈曲

リハビリ前

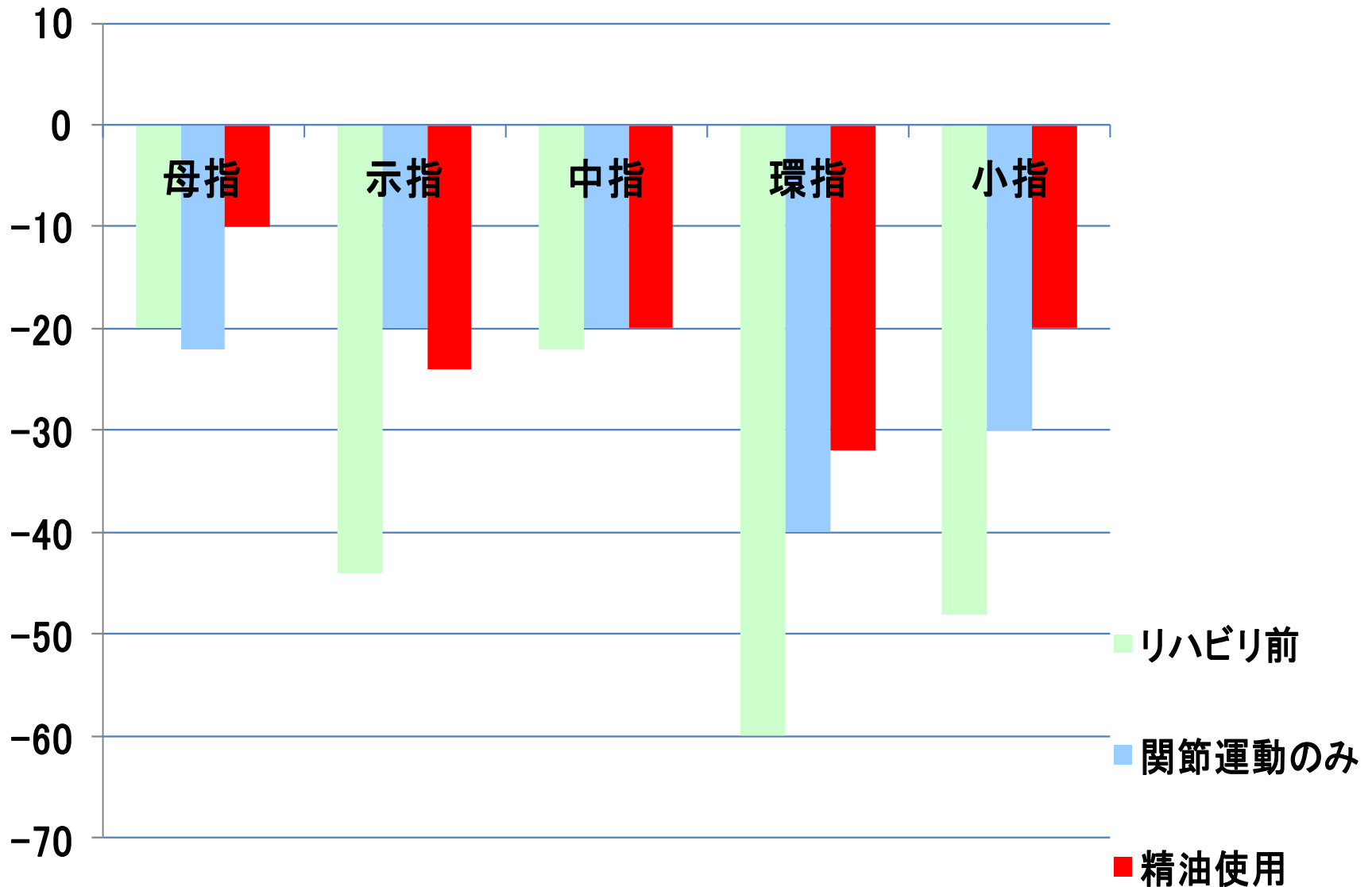


リハビリ後

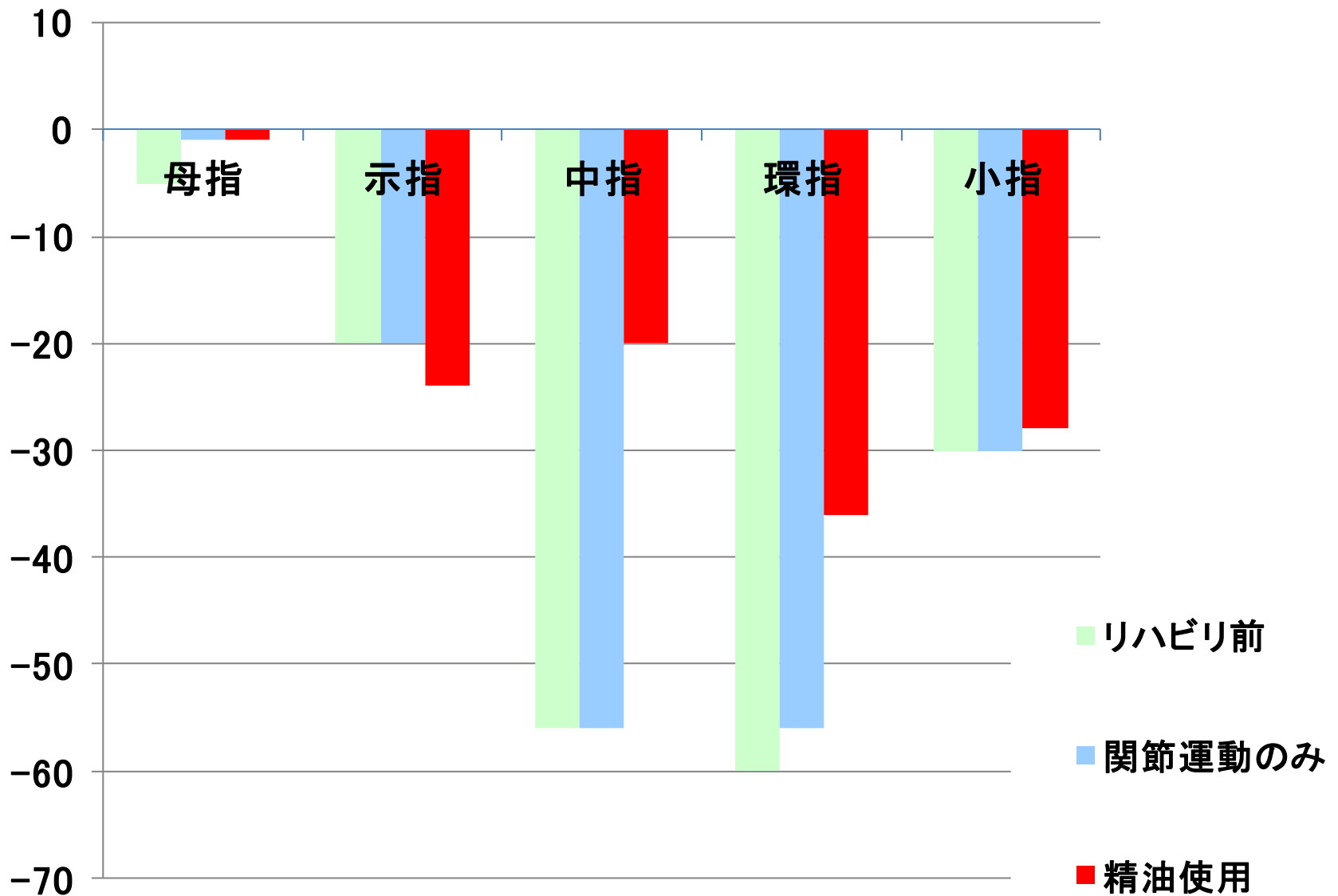
(アロマ施術後)



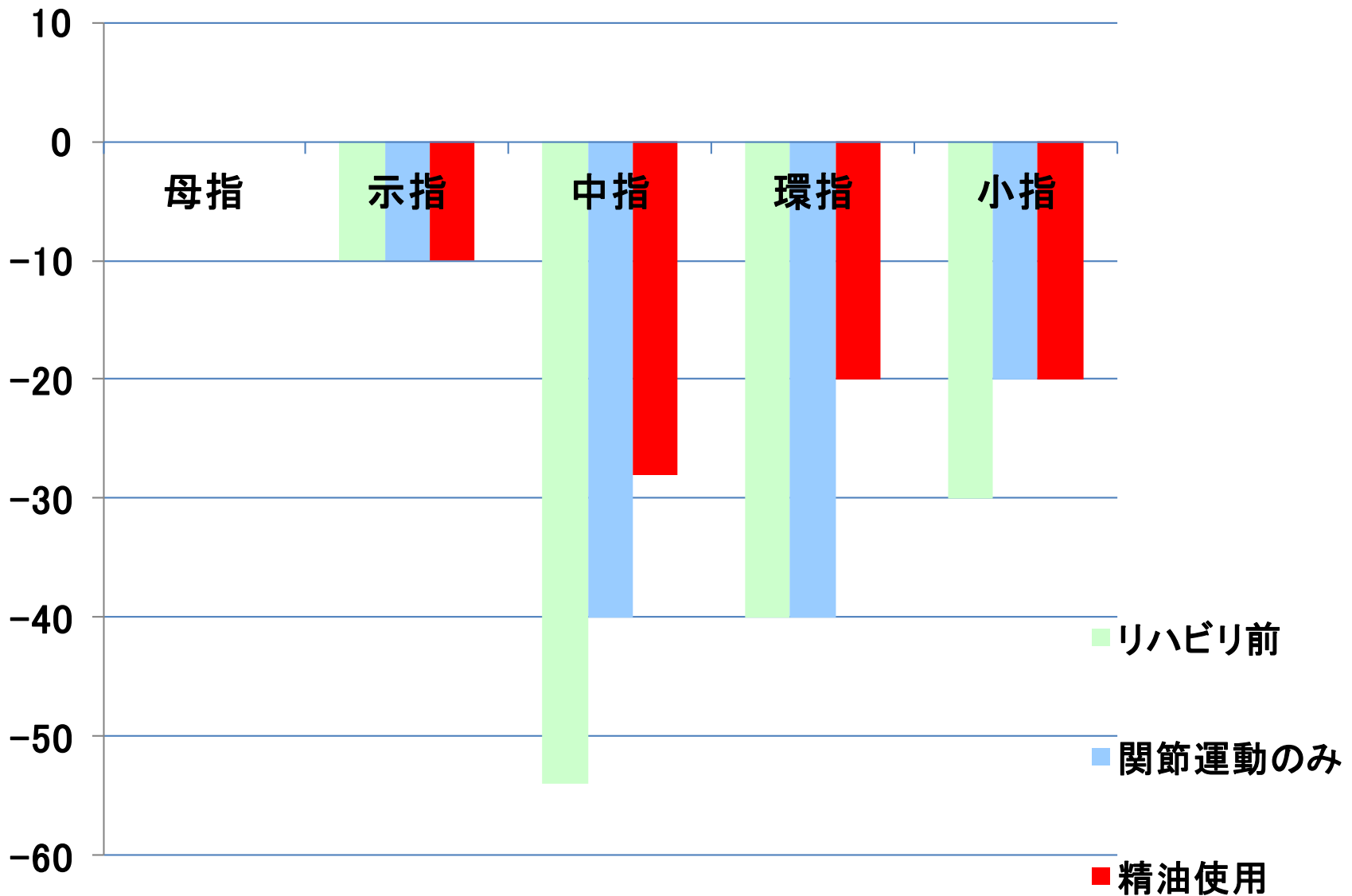
【右麻痺側手指ROMの変化】 MP関節：伸展



【右麻痺側手指ROMの変化】 PIP関節：伸展

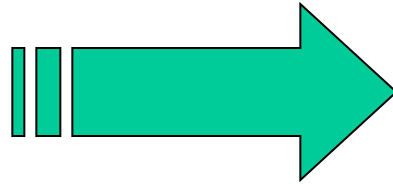


【右麻痺側手指ROMの変化】 DIP関節：伸展



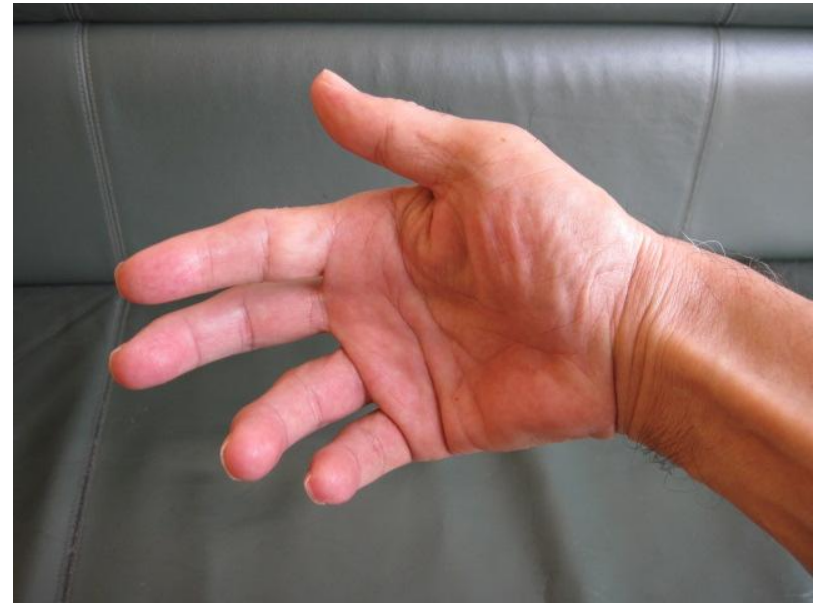
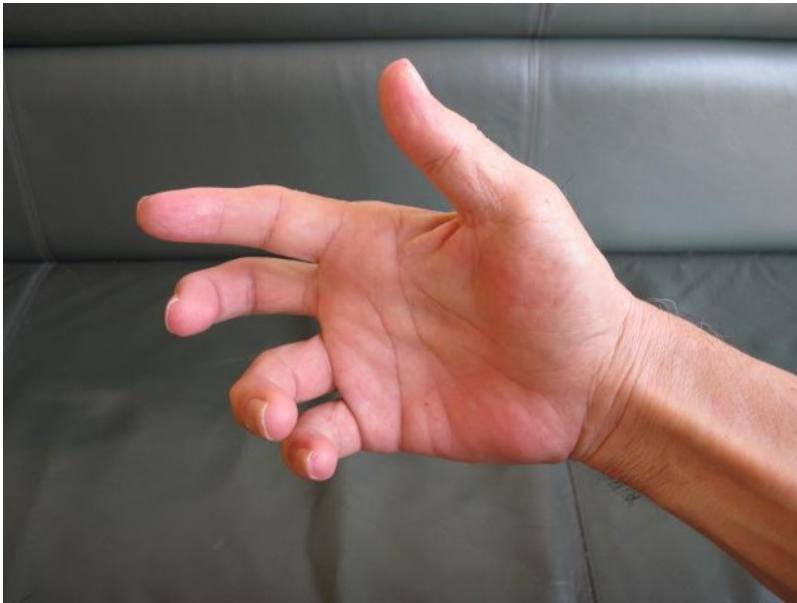
Y氏の手部：伸展

リハビリ前



リハビリ後

(アロマ施術後)



結果

アロマオイル
の使用

疼痛が
緩和

リハビリが
進んだ

症例②

患者 : M氏 男性 98歳

病名 : 脳梗塞後肺炎

施術目的: 喀痰量が多く誤嚥の危険があり、
継続したリハビリが困難

使用精油: ユーカリラジアタ6滴
サイプレス6滴

希釈軟膏: 白色ワセリン(プロペト)30g

施術方法:

1日3回前胸部にアロマ軟膏を塗布し、
痰の性状や喀出のし易さなどを記録し評価した

使用精油

●ユーカリラジアタ (*Eucalyptus radiata*)

主要成分 → 1.8シネオール・リモネン・ α テルピネオール

去痰・抗炎症・免疫向上・抗菌・抗ウイルス

●サイプレス (*Cupressus sempervirens*)

主要成分 → α -ピネン・ δ -3-カレンR(+)-リモネン

鬱滞除去・抗炎症・免疫向上・抗菌

抗ウイルス・鎮咳

■白色ワセリン軟膏(プロペト)



経過

<開始当初>

白色粘稠性の痰が多量にあり、咽頭ゴロ音著明で咳嗽反射あり。口腔や鼻腔より10回/日以上吸引を必要とした。

<1カ月後>

依然として痰量は多いが、痰の性状に変化がみられ、漿液性となり自己にて口腔に多量に喀出されるようになった。

<3カ月後>

痰の量が減り、徐々に吸引回数が減り、口腔ケアによる口腔内の痰除去のみとなった為、軟膏塗布を中止した。

結果

痰量が多く
頻回の吸引



リハビリ困難

アロマ軟膏使用

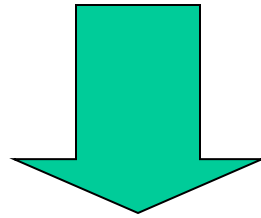


痰量が軽減

リハビリが
進んだ

考察

回復期病棟でのアロマ施術の活用効果



- ①リハビリの進捗の向上に役立つ
- ②リハビリへの意欲向上の要因となる
- ③随伴症状の緩和方法として役立つ
- ④患者や職員に対してリラクゼーション効果



**医学的治療と併用することで
相乗効果が得られた**

継続した具体的評価が必要

母数が少ない

スタッフへの
アロマセラピーの
指導が不足

評価の問題

適切な評価方法

他の要因からの
影響を除外

アロマには目的によって色々な使用用途があります。

今後もアロマについての知識を深めリハビリやリラクゼーションに積極的に使用し評価していきたいと思います。



御静聴ありがとうございました

